

市テスト(佐伯市評価規準診断テスト) 小4・中1

佐伯市では、市内の小学校4年生と中学校1年生の全児童生徒を対象とし、平成27年1月9日(金)に、市が独自に作成した問題で、「佐伯市評価規準診断テスト」を実施しました。

【実施教科】

小4・・・国語、算数、理科の3教科

中1・・・国語、社会、数学、理科、英語の5教科

【実施内容】

国語、社会、算数・数学、理科、英語の各教科の問題
生活習慣や学習習慣等に関する生活アンケート調査

【用語解説】

※正答率：児童生徒が正答した問題数の割合(%)・・・平均値

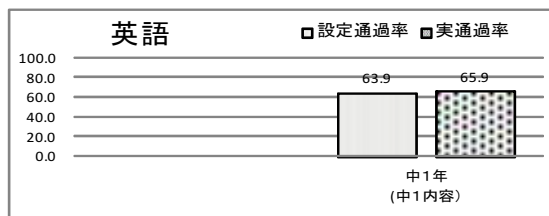
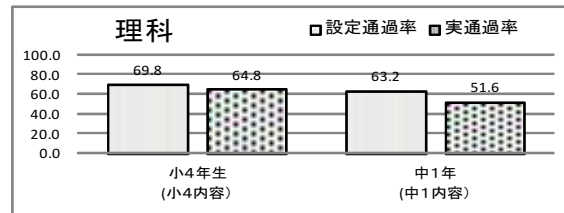
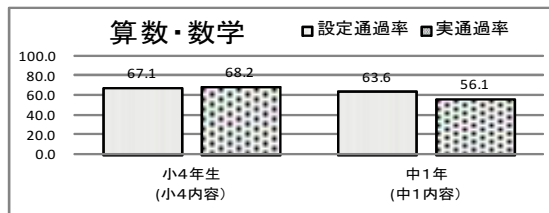
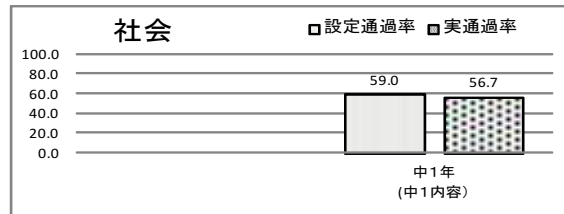
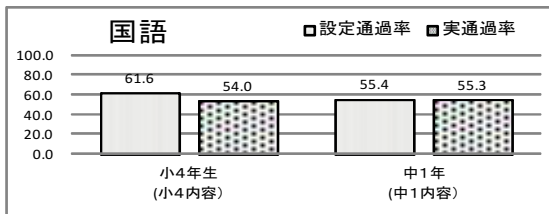
※達成率：目標値を上回った児童生徒数の割合(%)

※目標値：児童生徒に到達してほしい基準。目標とする点数の意味合い。

※目標とする達成率：佐伯市では各教科とも80%以上の達成率を目標としている。

1 各教科の全体的な達成度の判断について

各教科の達成度の判断については、「各教科の平均値(通過率の平均)－目標値(設定通過率の平均) ≥ -5 になった場合、達成度は『おおむね良好』とする。」との判断基準を設定した。



<小学校>

学年	教科	設定通過率	実通過率	良好
4年 (小4内容)	国語	61.6	54.0	
	算数	67.1	68.2	○
	理科	69.8	64.8	○

※○印がついている教科が「おおむね良好」と判断できる教科

<中学校>

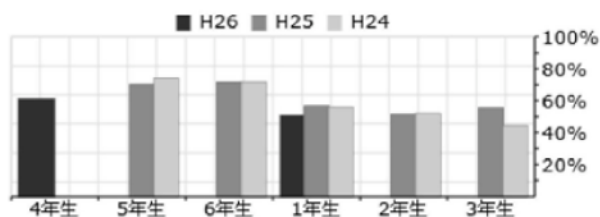
学年	教科	設定通過率	実通過率	良好
1年 (中1内容)	国語	55.4	55.3	○
	社会	59.0	56.7	○
	数学	63.6	56.1	
	理科	63.2	51.6	
	英語	63.9	65.9	○

※○印がついている教科が「おおむね良好」と判断できる教科

2 児童生徒の評価規準（目標値）の達成状況について

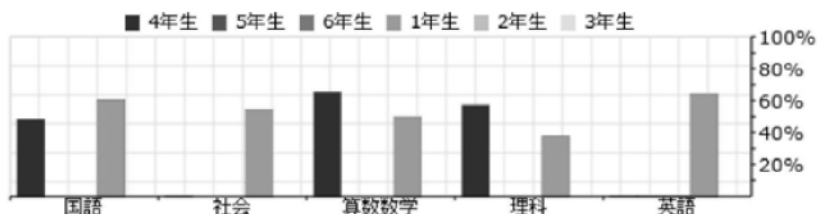
各教科の目標値（設定通過率の平均）やその合計に対して、「設定通過率を上回ると考えられる」もしくは「設定通過率と同程度と考えられる」児童生徒の割合が80%以上となった場合、学年における達成の度合いは「評価規準を達成した」とする判断基準を設定した。

- ① 学年別達成度 … 教科合計の目標値（各教科の設定通過率の合計）を「上回る」「同程度」と考えられる児童生徒の割合（%）



年度	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生		
平成26年度 (本年度)	61.1			50.8				
平成25年度		4年生 (小3内容)	5年生 (小4内容)	6年生 (小5内容)	1年生 (小6内容)	2年生 (中1内容)	3年生 (中2内容)	
		70.1	71.4	56.5	51.5	55.5		
平成24年度			4年生 (小3内容)	5年生 (小4内容)	6年生 (小5内容)	1年生 (小6内容)	2年生 (中1内容)	3年生 (中2内容)
				73.9	71.5	56.0	51.7	44.2

- ② 教科別達成度 … 各教科の目標値（設定通過率の平均）を「上回る」「同程度」と考えられる教科別児童生徒の割合（%）



年度	教科	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
		(小3内容)	(小4内容)	(小5内容)	(小6内容)	(中1内容)	(中2内容)
平成26年度 (本年度)	国語	48.2			60.4		
	社会	***			54.2		
	算数数学	65.2			49.7		
	理科	57.2			37.4		
	英語	***	***	***	64.2		
平成25年度	国語		81.1	83.7	48.9	37.7	57.6
	社会		56.7	54.1	66.5	52.7	58.7
	算数数学		59.2	78.5	59.4	61.9	49.8
	理科		74.1	66.4	51.9	53.3	47.7
	英語		***	***	56.2	46.3	64.3
平成24年度	国語		63.9	69.3	50.4	55.0	35.9
	社会		81.0	73.3	62.4	59.6	41.7
	算数数学		63.7	66.9	52.6	61.0	61.4
	理科		74.7	63.6	49.6	44.4	30.8
	英語		***	***	***	***	39.1

3 まとめ

平成24年度から、当該年度の12月までの学習内容を範囲としてテストを行ってきた。本年度より、対象学年を小学校4年生と中学校1年生とし、小学校では社会を除く3教科、中学校では5教科で実施した。

各教科の実通過率と設定通過率を比較した「各教科の全体的な達成度の判断」については、小学校では算数、理科が「おおむね良好」となった。国語では、実通過率が設定通過率を7.6ポイント下回る結果となった。

中学校1年では数学、理科を除く3教科で「おおむね良好」となった。また、数学では実通過率が設定通過率を7.5ポイント、理科では11.6ポイント下回った。

次に、全教科合計の実通過率と設定通過率を比較した「学年別達成度」については、小学校4年では61.1%の児童が、中学校1年では50.8%の生徒が各教科の設定通過率の合計(学年の目標値)を「上回る」又は「同程度」となった。中学校1年については、昨年度から20ポイントほど減少した。

また、各教科の設定通過率を「上回る」か「同程度」と見られる児童生徒の割合を見る「教科別達成度」が80%(市が目標としている数値)を超えた教科はなかった。いずれの学年・教科においても80%から遠く、小学校国語、中学校数学、中学校理科では50%を下回った。

その要因として、短答式でなく「文章による記述」等、条件を付けて解答する問いを増やしていることに加え、「表とグラフを対応させたり、表やグラフから読み取れることは何かを問う」問題や「複数の資料を組み合わせて解答を求めたり、読み取れることは何かを問う」問題など、「資料を読み取って考える」設問を増やしていること等が考えられる。

教科別達成度が30%~40%台となっている教科・学年については、教師側の感覚と生徒の実態がかけ離れていることが考えられる。

従って、小・中学校ともに、今後の指導において、知識・技能の理解や定着、得た知識や技能を活用して課題を解決する力に係る評価及び評価に基づく指導法の改善を進めることが急務である。そのため、全教科において、目的に応じて、資料等から情報を得て、思考・判断し、表現する授業を進める中で、情報を「より正確に」理解し、「より適切に」表現できるような、言語活動の質を高める取組が必要である。